

(別添資料 1)

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービスもりびた		支援プログラム（児童発達支援）		作成日		2026 年		10 月		1 日	
法人（事業所）理念		子どもが「まんなか」です。支援の中心はお子さまで、支援の根っこはお子さまらしくあれることです。私たちは、周囲や社会のためではない、その子がその子らしくあれるために必要な支援と環境を考えます。誰のためか？その課題は誰のものか？誰が困っている（困る）のか？私たちが寄り添う課題や困りは、誰かのものではなく目の前の子どもたちでありたいと考えています。そのために、保護者の皆さまとともに、関係機関、医療、専門機関、地域の方々、かけがえのない支援者の皆さまとコミュニケーションを取り、協力をいただきながら、子どもたちが自分らしくあれる環境と社会を一緒につくっていきます。											
支援方針		1．子どもの選択と経験を見守る 2．安心して自分らしさを表現できる環境設定 3．多様な存在とともに過ごす											
営業時間		平日 10時00分～18時00分（うち提供時間 10:00～13:00, 15:00～17:00） 休日 9時30分～17時30分（うち提供時間 10:00～16:00）				送迎実施の有無		あり					
		支 援 内 容											
本人支援	健康・生活	自然豊かな施設環境の中で、心と身体の声に耳を傾けた過ごし方を提案します。体調に合わせた過ごし方、季節や活動に合わせた服装などを、子どもたちの実感から行動を促し、日常生活に活かせるようにサポートします。また、庭では畑づくりを行っており、自分たちで作った野菜を料理して食べる経験などを通した食育も行っています。											
	運動・感覚	広々として自然豊かな野外環境での身体全体を使った活動や自然素材を用いた細かな工作を通して、子どもたちの五感を刺激し、運動機能や感覚の発達を促します。また、ときに予測が難しく、扱いが難しい自然物や自然環境は、子どもたちの感覚や知識経験に基づいた状況把握能力とそれに合わせた身体操作能力や運動能力を培います。											
	認知・行動	時間とともに変化する自然のなかで、本物を目で見て、耳で聞き、触って確かめる体験を重視します。木登りや自然素材をつかった工作、昆虫や植物、樹木の観察を通して、自然を見る目を養います。また、実際の体験を通じた経験の積み重ねが、子どもたちの自信や自尊心を育てます。											
	言語 コミュニケーション	小集団での遊びや活動を通じて、信頼関係を土台に、自分の気持ちを伝え、相手の話を理解できるよう、経験や実感をもった言葉選びやコミュニケーションを学びます。大人が寄り添った環境での実際のコミュニケーションで、うまくいかないことを経験し、受け止め、その子に合った表現や関わり方を一緒に考えていきます。											
	人間関係 社会性	小集団のなかで子どもたち同士や大人と関わりながら、自分を大切にし、他者を大切にする信頼関係の築き方を相互交流をもって学びます。大人が、子どもひとりひとりの気持ちや葛藤に寄り添いながら、子どもたち同士や周囲の環境との関係づくりをアシストし、実体験に基づいた社会性の獲得を目指します。											
家族支援		積極的に保護者様との面談機会を設け、お子さまに対するご家族の思いを尊重しながら、一緒に考えていけるよう、連絡の取りやすい連絡ツールと対面併用による相談体制を活用し、ご家族をサポートします。				移行支援		各機関との連携会議を実施し、情報共有に取り組みます。お子さまにとって、生活する場所や環境がより良いものになるように働きかけます。					
地域支援・地域連携		近隣の小学校の学校林の活用や生徒と施設の交流などを定期的に行い、連携を行っています。自然豊かな地域の環境を活かし、地域に解放したイベントも定期的に行っています。				職員の質の向上		オンラインの職員研修システムを活用し、子どもの発達について専門的に学べる環境を整えています。また、心理士によるスーパーバイズを行っています。定期的な研修やオンライン甲州など、積極的に学びの機会を創出しています。					
主な行事等		・月2回の事業所オープンデー、不定期の交流イベント ・羊の受け入れ（夏季長期休み期間） ・外部講師による自然体験活動や樹木医監修のもと植樹や樹木の活用など年間を通した活動を実施											